

# 新教育の森

耳の聞こえない子どもたちに「日本手話」で授業をする全国で初めての学校が来年4月、東京都品川区に開校を予定している。ろう教育ではこれまで、補聴器を使って口の動きを読み取って発音させる「聴覚口話法」が主流で、日本手話で授業をする学校はなかった。日本手話は子どもが自然と身につけることができ、保護者らの長年の願いがようやく実現する。開校に向けて準備を進めているフリースクールを訪ねた。

【佐藤敏一、写真も】

■机はコの字形  
東京都品川区立浅間台小学校。2階に耳の聞こえない子どもたちも日本手話で授業を行うフリースクール「龍の子学園」がある。保護者らでつくるNPO法人「バイリンガル・バイカルチュラル教育センター」が運営。3教室を借りて、火曜日から金曜日までの週4日、幼児、小学クラス約60人が学ぶ。教室の半分を使った小学3、4年生のクラス。当番が教室の電灯をつけたり消したりするのがチャームの代わりだ。手話が見えやすいよう9人の子どもの机を囲むようにしてコの字形に机を並べ、算数の授業が始まった。スタッフが手話で子どもたちに尋ねていく。5000円札のデザインで誰だっけ「女の人じゃなかったかな。次々」と手が挙がり、にぎやかな雰囲気。授業が進む。友達同士で冗談を言い合えば、歩き回ってスタッフに注意される子どももいる。どこでもみられる授業の光景だ。ただ、違うのはすべての会話が手話で行われている点だ。

手話 国内で使われている手話には大きく分けて「日本手話」と「日本語対应手話」がある。「日本手話」は独自の文法体系を持ち、耳の聞こえない人たちの間で受け継がれてきた。手の形や動きなどだけではなく、顔の表情などにも文法的な意味がある。「日本語対应手話」は日本語の語順にあわせて手話の単語を並べていき、日本語を話しながら手話を使う場合の多くはこれに当たる。中途で聞こえなくなった人には有効だが生まれつき聞こえない人にとっては難しい。日本弁護士連合会は09年、国は手話が言語であることを認め、手話教育の中で正当に位置づけられるべきだ」と手話教育の充実を求める意見書を文部科学省に出している。

## 手話で学べる

■自立を前提に  
自らも生まれつき耳が聞こえないスタッフの小野広祐さん(29)は「自分のころは聞こえる人と同じようにならなければいけないと発音の練習ばかりさせられ、手話は駄目と言われていた。学園の子どもたちはろう者であることが当たり前と思っていて、のびのびしているところからスタートできている」と話す。

長女を通じている母親(42)は「先生がきちんと手話で説明してくれるのが子どもにとってうれしい。ここに来て笑顔が戻ったと話す。広島県から1カ月1度、1週間長女を通わせる母親(35)も「子どもにはいろいろな感情があり、いろいろなことを訴えている」とい

## 弾む会話 表情生き生き

うことが分かった。子どもが自立することを前提に育てられると語る。

一方、公立学校にフリースクールが同居するのは全国的にも珍しい。同小の豊島区次長は「近くのろう学校と社会活動などを長年一緒にやっており「龍の子」の子どもが入ってきて違和感がなかった。特別な交流はしていないが、子ども同士が自然な形で触れ合っている」と話す。

さらに学校設立を目指して03年から政府の構造改革特区制度への提案を続け、05年に文部科学省から「学習指導要領に定める指導方法の一形態として可能」との回答を得た。今年3月には、東京都の特区申請が国に認められた。

開校する学校の校名は「ろう児がろうである自分に誇りと自信を持って明るく晴れやかな未来に向かって成長していってほしい」という願いを込め「明晴学園」と名付けた。

幼稚園と小学部を置き、手話を第一言語として日本語や各教科を学ぶ。学園の4年生が中学生になる10年4月には中学部も設置する予定だ。

次男が通う同センター広報担当の玉田さみさん(45)は「私たちが最初のモデルケースをつくり、ここで耳の聞こえない子どもが生まれ、教育を受けられることを選択できるようにしたい。公教育でも日本手話による教育を取り入れるようになれば」と話す。

センターは学校法人設立に必要な運営の基本金について寄付を募っている。

問い合わせはセンター  
03・66800・675  
//www.bbed.org)

### 全国初 「日本手話」授業の学校、来春開校



子どもたちに手話で指導するスタッフ。東京都品川区の龍の子学園で6月26日

東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉准教授(言語脳科学) 写真  
手話について聞いた。

＊  
日本手話は日本語や英語などと同じように文法を持ち子どもが母語として自然に身につけられる言語の一つ。

補聴器を使って口の動きを読み取って発音させる「聴覚口話法」が教えられる。分かりやすく例えれば厚い防弾ガラスの向こうで先生が英語を話しながら聞こえない状況なのに、口の動きだけを見て英会話をマスターできるかということ。それを想像すればいかに苦痛を伴う大変な作業であるかが分かる。耳の聞こえない人と聞かれない人との間に手話が言語であるという認識が行政にも教育にもなかった。自然に身につけられる言語で学ぶことは、思考を育てる基礎となり、重要なこと。その意味で日本手話で授業を行う学校ができたことは大きな一歩だ。

### 左脳使う自然な言語

酒井邦嘉・東大准教授に聞く

会話時の脳の使い方について研究したところ手話も音声言語と同じ左脳優位で左脳のどこを使っているかという場所までも完全に一致した。だから手話が人間の言語であることははっきりしている。ろう教育ではこれまで